

フィネガンズ

James Joyce Finnegans Wake

ジェームズ・ジョイス

柳瀬尚紀 訳

ウェイク



フネガンズ ウェイク I・II

James Joyce Finnegans Wake

ジェイムズ・ジョイス

Yanase
Shiroki

柳瀬尚紀 訳

河出書房新社

ジェイムズ・ジョイス
フィネガンズ・ウェイク I・II

1991 年 9 月 20 日 初版印刷

1991 年 9 月 30 日 初版発行

訳 者 柳瀬尚紀

発行者 清水 勝

発行所 河出書房新社

東京都渋谷区千駄ヶ谷 2-32-2

電話 (03)3404-1201(営業) 3404-8611(編集)

振替 東京 0-10802

装 幀 菊地信義

装 画 山本容子

印刷 暁印刷株式会社

製本 加藤製本株式会社

落丁・乱丁本はおとりかえします
定価はカバー・帯に表示してあります

Printed in Japan © 1991

ISBN4-309-20169-5

フ
ィ
ネ
ガ
ン
ズ
・
ウ
ェ
イ
ク

I・

II

川走、イブとアダム礼盆亭を過ぎ、く寝る岸辺から輪曲する湾へ、今も度失せぬ巡り路を媚行し、巡り戻るは栄地四囲委蛇たるハウス城とその周囲。

サー・トリストラム、かの恋の伶人が、短潮の海を越え、ノース・アルモリカからこちらヨーロッパ・マイナールの回ぎす地峡へ遅れ早せながら孤軍筆戦せんと、ふた旅やつてきたのは、もうとうに、まだまだだった。オコ―ネー河畔の頭ソーヤー団地がうわつさうわつさとダブリつづけ、ローレンス郡は常時阿集にふくれあがったのも、もうまだだった。遠炎の一声が吾め割れ目とのたまわつて汝バトリックの泥誕を洗礼したのも、もうまだだった。鹿るのちに、山羊皮息子が若下司のいたりで盲碌伊作爺さんを食ぶらかしたのも、じきにまだだった。恋は発条サというものの、ステラれ姉妹がふたりで情ナサン男に憤ったのは、まだだった。親父の麦芽をちよつぱり醸酵させたのをジェムかシェンがアーク明りのもとで醸造し終えると、赤にじむ虹弓の端が水面に弧つぜんと見えようとしていた。

転落（バババベラガガラババンブティドツヒャンブティゴゴロゴロカミナロンコンサンダダンダウオルルガガイッテヘヘトールトルトロロンピッカズンンドドーフダフラフクオオヤジグシヤッーン！）、旧魚留街の老仁の尾話は初耳には寢床で、のちには命流くギリシ譚吟遊史に語り継がれる。離壁の大潰落はたちまちにしてごつ墜男フイネガンのずってーん落を巻き込んで、頭んぐり身が食むしやらに浅索好きを酉へと井戸ませ、無垢つちよあんよを採しにやらせる。するとそのひつくり肢つてん場つ点は公園の隅ロッキー、どぶりン

の初いとしりフィーがく寝つて以来、オレンジたちが寄りどりち緑に赤さびるままだに草つてるところ。

こはなんたる意くさ意うきの、貝神重面姐と魚神耿快児のもつれどもえのがしやがしやーん！ ゲッケロ、

ケロケケ、ケケロケ、ケッケロ！ キヒヤー、キヒエー、キヒヨー！ ウワー、ウヂー、ウラー！ クウワラバ

ラウ！ 槍まくり棒徒らはなおもつぶてのつわものどもを突きに突き、武得ル団が頭巾頭げの白弧隊の肉弾道を

石弓で攻め立てる。城門攻めとブーメ乱嵐。神芝居のぞつ土血まみれ！ 無血の栄枯ーよ！ 武器が累涙とどど

ろく。死ぬ死ぬ死ぬ、あ、逝く、あ、逝く。なんたる過失致ちくり、なんたる風中楼郭の通気好！ 我汝を助け

べ塀主に誘罪されたる愛して寵たい女ら！ 偽りのじやつくりまじりの葉い声ひきつらせて干草毛を求めぬ真

情！ ああ、ここう伏して黄昏ゆく姦淫主義者たちの父、しかし（おお、わが輝ける星体！）いと高き天空に

燎扇とひろがった柔らかな告示のスカイサイン！ だが、さっきがいま？ いざるでにせよ？ ほん前にそうだ

ったた？ いにしえの櫓はいまや泥炭らかに眠るが、ト寝リコのあるところに櫓は根群れる。たとえ落ちてても

いずれば、かならずや起きねばならぬのだ。そうしてじきに尻つちよろい茶番が不意ニ燦んで一件終着に灰あが

るのが浮世の定め。

棟梁フィネガン、どもり手フリー面相は、裁き人らが士師憤然ヨシユ悪しと民数を記す前から荒唐無稽通りの

いぐさ明りの奥間った奥間に寝あかに暮らし、あるいはへつレビ野郎は申命賭して烟行重ね（ある醜曜日、こい

つはスッターンとばかり桶に頭をずつこんで己が未来を占顔せんとしたのだが、スイフト振るい抜かないうち

に、モーセつばつまつて水が蒸ツと脱出するや、宜熟スの創世酒が残らず飛び埃に及び、どうじやこいつは、水

も酒も五つ書くたな男！）そしてくる年めくる年、この栄恥しい違々たる番セメント家造りは、飲んべえ村で何

房川の土手にえい糞つと屋上屋を重ねていた。穴萊媚亜はちちりかわいこだつこちゃん。干草まみれ手で何

内にものをたくましくこめろ。しばしば飲み吃つては見惚レ帽かぶり、ぐつどりした鍔にぎりしめて常見頃に種好

をこらした象牙油まみれの仕事着姿、いかにも嬰稚示威偉々たる卯交爵らしく、高さも数も殖やしに殖やし、や

がて宵酒明りの酔いね眼に双生してくるのが見えて、昔日の円頭形の逸物はむき出し石堅く直立(嬉)大喜、目にもおさまらぬ塔ほうもない摩天楼、無からむくむく起つたて、天スカレートに天膜までも貫かんばかりの高僧建築塔酔極み、だべるの塔天に燃ゆる柴ありて、杖使いらがたかた上がり、斗升バケツがからから落トウール。

初めに彼は紋章と名をま裸つた。巨人町の武器つちよ戦士、酒之好太郎。この寝虎礼式紋は、地みどりにあわてうらたえる粒銀ぞろいの侍女たちを、雄慥な山羊が追いかけて、おっそろしく角剥き出す。次には盾紋に中帯が入り、弓引く射手らを日輪が照らす。酒んに鋤ふり耕し男。ほほほほ、フィンさん、あんたつてのはまた立ち氏ね！ 穴曜日の朝になると、ほら、武葡萄酒になっちゃって！ 寝て曜日の宵になると、あら、酔っかりだめ！ はははは、ファンさん、またまた不淫念願するんだから！

するといかなる動奇にかられて、あの淫果な雷曜日に、この町がつたむ罪事をやらしたのか？ われらが方家はいまだ揺れつつ彼の荒裸トしい雷音を証耳きに聞き、しかし世に世を継いでに不死ずまらぬかいきょうどものもつれへむのめつためつたかな雑唱は、天から転落した白玉を黒くするめにしようとしている。それゆえに堅きを求めるわれらを支えたまえ、おおいなる支護神よ、われらがいつ起き立つとも、いつ妻楊枝を使うとも、革床に組んずれからむ前も、夜も、星の掻き消えゆくときも！ というのも隣神にうなずくのが留守神に流し目するよりまし。さもなければあの大僧正の棺槨の夢うつらうつら、魔界山とエジブシー海の間を床四苦も罵罵まくることになる。背む黒の草野刈助に決めさせろ。それで宴か金揚日かどうかがわかるだろう。なにせ壺心得の女、所在ありげに助けべ男に応じる夢姫だ。ご注意！ ご注意！ た半ぶんは不養生焼け煉瓦のせいだったろう、という者もあれば、裏家姑束の凋落のせいだったらしい、と見た者もいる。(いまや拡立する千一屋の物語、すべて同じ夜伽話。) しかし食酸っぱな禁断の味(なにせ葬大な音ぞましき、ロールス櫓椅子、キャデラック、霧クシオン、円形広場、内変ジン、霊櫃車、路樹面電車、呼び瓜車、自動動車、ちん馬車、どじ馬車、煙タク、霧クシオン、円形広場、内

外堀、バジリスク聖堂、天突き聖堂などなど、そして漫引と粹兵と根巻姿のおまわりと莫連女の耳かじり、隼もぐりの岩穴通り、いつもの細穴四辻、なおも目抜きに突き抜けて、もく黒の操業煙突が十二錢塔に林立し、乗謫バスは安全第一通りを橋返って滑り行き、ぬくめらかな蜜巴らが告げ口現金の仕立屋角をかきまわり、羅馬寝好くな土地つ子たちの内房籠もり、厨房みがき、外房よじりの奏煙と壯觀と騒音が、雄泥雌泥に雄たけび雌たけび屋根つばずれの一声蜂起、あたしの也の字とあなたの矢の柱が駒橋下で音色を合わす、散るちつ充ちると満ち落ちる。もこ畚ともっこり重く、畚漂々しく大振動。(むろん壁は勃起立) どどつてーん！ どもりんどりと梯子から転落。しよつてーん！ 昇天だ。がつてーん！ 墳墓に入れマスタバな、主石室に入れましたばな、男が陽婚すると降りユート長らく憂しがるんで。世が充に見せたいものだ。

災凶？ 墓つてみよう！ マクル、マクル、ほうら汝やつて死んじつちまった？ 喪苦曜日の燥朝つてのに？ 満ちまくりフィラガンの聖油つや艶の通夜に、むせび泣きしやくりあげた国じゅうの夜多者たち、仰天して寝つくり返り、十二重に溢れだぶれる頌辞を歌った。あるわおるわ、お菓子なものに果まくもの、旧吏に知恵吏、知ナモン稀モン、勝つを武士に湯蕩夫ら。そして巨党團結、声大なる掘り浮かれ。ゴグゴグ飲マゴグ、ワンラウンドでごろつきー。漢夫匈奴の挑み果てまで円宴つづくあの祭儀！ キンキン交ラス唱す者たち、カンカン舞悼を踊る者たち。弔鐘にて埋め立て、甲穴にて掘り起こす。硬直だけれども実直なのは歌人の長ブライアン・オリン！ なんだつて品一品の陽芳の若者だった。枕石をスクーンと磨き、ビール棺をこつこつ叩け！ この全旋界の何処時にこんな響を聞けようか。深園から掘もしろげに土まみれの貞信ぶり。みなは彼を嘔ひろがる長終の臥床へと永らえた。黙示録フィニスキーのちびちび瓶を足まに。ごくごく極樽のギネスを頭もとにフルートべろんべろん弦ぐでんぐでんの一大徒群らい葬奏液出ん、おお！

そうれ、若い煙も鼻出歩く復老岳も目車しくも日めくり夜めくり、たつたひとつの蕩々ロジカルに同じものだ。さて、ヒン氏もそうであるから蝶なるその伸び体は超伸大にハベルのを覗いて見ようか、ホン氏半疑ながら、

さてはて、た小便ぎを図つて前開き頁を見よ、大皿凶版あり。臼つハン氏！しゃべりゾッドからだべりつ区へ、とねりこ樽丁から酒乱横丁へ、銀行堀通から丸坊主峠へ、鉾岬から目之島へ、永地四位咩移にひろがり伸びる。そしてはるばる（ホ涙んの悼笛！）フィヨルドからフィエルドへと浜風のオー吠エの嘆きが岩跳ねて（ビュヒュービュヒュー！）永々と詠じ泳ぎ、凜夫威長の夜、谷潤したたる夜、藍鐘花の開く夜、そのフ流一トが技巧みに韻美に泣いて（おお、可憐な芋笛！ おお、カリナ！）彼を哀陶する。滝が発条って情死し、ピジャマ鳥らの燕遊、出たり入ったり。棺桶物語の巻を甲高く、伊達者太の字黙リンの墮落をだみ声で。太食前の祈り。われらは、極太の才長けたれば、信じやすきなるに。されば願いをこ高卵のうえ、胃袋のために鱈をまわしたまえ。苦ーメン。われらを嘆息たまえ。老鯪ふとつちよは落つこちるも、にやにや婆ちゃんが円卓をひろげる。でか皿に軀がってるのは誰何だ？ 鯪背のフィンフォーフオン。あのこんがり頭は誰何？ 東バト聖菓の頭パン。ホップに孵化れて尾どってるのは誰何？ 朝幌麟印の泡立たしき吞ベリン・ビールのグラス。しかし、おやや、その迷酒をぐぐぐ飲み飲みして白花の髓に齒を埋めんとするや、見よ、彼は蛾馬となりてもはや何処怪な。不意ニツシユ！ ただ惜日身の写身。ほとんどほろ赤な古ビコン鯪、口あんぐアーペの愛餐時代の老もので、霧我霧中にとろけ化されて、缶桶に入れられ包送される。かくして輪飲と鯪盛りの鰯腹三昧の逝餐は鶏魚よく終わりやれやれ。しかしなお、耶蘇らかに眠る輪郭の雷魚の姿が見えはしまいか、かつて雷龍に愛されいま鉾龍に脅かされる虹鱒川の菅迎でわれらが夜を過ごすときさえも。営地ニテ権ヅカニ遣一タイトナレリ。安ラクニ並ラビソウ璃美ナルムスメ有り。旗ばた娘だろが、ぼろ臭だろが、晴れ妓だろが、金うなりだろが、銭乞いだろが、かまうものか。ああ、たしかに皆が愛するあばずれアンナ、いやつまり、雨連れアンナ、波傘さしてしっこり濡れてじゃぶじゃぶと、あんな阿呆山羊みたいに歩いて行く。よう！ 雷男の独り寝かい、よういびきかいて。ヒース岬のしゃべり雑踏のなかでも。その頭蓋頭、その理知な城、霧彼方に若向きに覗く。訪ス？ その粘土足が緑草に芝られてぼっこり突き出しているのは、彼がこのあいだ落っこちたところ、彈薬庫壁の入口

あたり、あのマギーちゃんが腹掛け違ひの妹と一部始終を見てしまったところ。この美女戦線のその股向うは六〇高地、いざ窪が丘へ！ 岩背後には、ずどん、どずん、どずん、タラ伏ひそむ兵が茂み、構え撃てらの利つ不意な待ち伏せの地。雲が流れ行くと、それ、ここから楽しめる鳥獣図、慢頭塚はいまは石壁リントン国立博物館、その少し緑彼方には魅惑の水潤オータール田園がひろがり、ふたりの肌つ白い村娘がけたたましく捲くり湯葉りの叢にこれ耳よがしく現れて、可愛い子たち！ 看通者は土塁館、入場無料。ウエルズと愛覧の兵隊さんなら、たつたの一尻ング！ 親衛隊の廃兵回春の人たちは、歩ら歩ら押せ押せ車をご利用の上、たつぷりと標的をこ覧戦のこと。合鍵は、管理女のケイト女史に心付けを。チップ。

ミュージズ博茸館はこちらです。頭元に気を付けてお入りを！ さあ、こちらが欣求昇天茸快館。これはプロイ戦銃。これは腐乱ス銃。チップ。これはプロイ戦旗、鏢皿付き幟。これはプロイ戦旗を破つた英雄牛を撃つた腐乱ス銃。一斉十字射撃！ 槍と叉鉾も立て！ チップ。(牛足！ すこい！) これは脂つポレオンの三獲帽。

チップ。脂つ惣レオン帽。これはいつもの白尻馬、その名も沽券破一グに跨がる有気凛リントン。これは巨大な、さあー殺氣凛リントン、威大も伊太畏、金びか拍車、鉄鋼入りのぎく爵ズボン、勝つとるブラボー木靴。摩具なガーター、万克の一級胴着、御利当ての長靴、ペロボン寝粗相君の戦闘ズボン。これはこの人の広大なる馬尻。チップ。これは三人の脂つポレオン兵士が命流らえの溝に母音でうめき伏しているところ。これは絵ニシキレン英兵士、これは蘇格の龍騎兵、これは蘭海兵、みんな前かがみ。これは脂つポレオンの鎧でも虫義立ちでも小將に猛令しているところ。ギャローうえーと侃々諤々。これは脂つポレオンの囊中の錐でも虫義立ちでもない小砲。試射。射勢！ 火口燈太。鈴口色次。それに陰口毛三郎。三人ともども武器みに伏す者たち。これはドロス連峰。これはチベル山、これはサンジャン酔い岳、これはモンスこい大恥丘。これは亜流婦栖の暗ミヤな線がぐねり望んで脂つポレオンの三人はしどろおどろ。麦藁帽をかぶりヴェオルノは妖ニーたち、股ひろげて手製の戦星術の本を読むふりしながら有気凛リントンのぐらつき下で争いの小用を足しているところ。この妖ニーは

手を鳩撫で声にして、この妖ニ―は鴉髪をもつれ洗つて、有氣凛リントンは部体をふるいたせる。これは大
 きい有氣凛リントンおつそ蠟しい記念碑、千人斬り像が妖ニ―の両翼に黒曜立ち。筒口直径、六馬力。チツプ。こ
 れはベル戯―お殿が恐父の朝―から妓ネス黒ムウエル氏の昏愛なる雌馬をくすねているところ。戦利品。これは
 妖ニ―の兵ス境具スの急波便、有氣凛リントンをい湿ようという魂胆。ベル戯―お殿のシャツ胸に細い赤の線
 書かれた急波便。よう、よう、よう！ 身哀なるア―サー。ひれ怖しな！ 戦線恐妻めが。閨具。寝トルオン。
 有氣凛リントンの前線むかつ立たせの妖ニ―の略作。妖、妖、妖！ 妖ニ―は脂っポレオンの者たちみなを嫉妬
 りと味ヤンクールに攻め返す。それで脂っポレオン群はボイコットン毆狂いに、有氣凛リントンひとりにのしか
 かる。それで有氣凛リントンは部体をふるいたせる。これは便利屋ベル戯―お殿、別格の笠帽に誓い、耳まで
 一丸となつてその秘語を有氣凛リントんに弁達す。これは有氣凛リントンの投じ返す急書返し。ベル戯―お殿の
 後衛陣に散開した急書。砲火おサラマンカ！ 揚、揚、揚！ 悲哀なる妖君。イチジクそくらえ！ アンの子妖
 婦へ、軽具。有氣凛リントン。丁々濺止、有氣凛リントンの初代爵士冗戯。洋、洋、洋！ これは十二枚裏の牛
 長穿いたベル戯―お殿、ひちよひちよ、ひちよひちよ、ひちよひちよ前進、妖ニ―らのために TENT を張る。一
 口飲んで、飲んじやつたつて、というのは樽酒溜めて弛むよりはギネスをふるまう御仁。これはロシアの弾丸。
 これは惨壕。これは射出隊。芥子鼻付き菜砲翁。百日免償放逸の後。これは禍報者。垂らす、べとらす！ 此
 はブルっヒヤ―とすような白半長を穿いた妖ニ―。これは真赤な騒トツキング穿いた脂っポレオン。これは
 有氣凛リントン、コークの弾はじけ、射勢命令。ズズドーン！（牛耳！ す芸！）これはキャメル隊、これはふ
 らっフロッデーと倒れ兵、これは硝煙の悪血膿ム戦士のけソル増エリー野、これはその声わめいテル猛飛来、
 これはバノックバーンと燃え野っ原。こんなことアルメイダ！ 絡みオルテスキの者の通ルーズ！ これは有氣
 凛リントンの叫び。ブラン！ ブラン！ カンブラン！ これは妖ニ―の叫び。下濡れ襲雷！ フィン羊を山羊
 剥ぎ！ これは妖ニ―が組みアウ命ステル戦リツツの地へと挽歌―ヒルを逃れ下つていくところ。ちびつ、ちよ

はつ、ちびつ、たらつ、たらつ、たらつ、軽やかに。彼らが心そこにあり。チップ。これはベル戯ーお殿のカッ謝ン感シヤンの銀皿、缶ニスターの寒気で冷やした灌葡萄の鑑賞用。お国の駄目に！これは妖ニーが彼らのあとに残していった媚ッスマルク、溜マル溜マリヤ溜マラトン。これは有氣凜リントンが同じおつそ蠟しい記念碑の愛鏈棒を逃亡妖ニーに王位に示慰して愉悅しているところ。離魂のガンバリスト！鯨籠のご加護を！これは脂ッポレオンのいちばんの小者、飢えるず泥公、有氣凜リントンの希望ハーグの巨大な白馬尻から彼を窺う。石壁の有氣凜リントンは一多律儀な老所帯持ち。脂ッポレオンは若吊らした古着直しの独り者。これは有氣凜リントンを笑嘲っている齒イエナ・ヒネシー。これはヒネシーのライブツツ底の臭撃に戦う道理唇のドゥーリ。これは胴李運びのドゥーリとヒネシーにはきまつたヒンドウーのシマル・シン。チップ。これは脂ッポレオンの半端の三葉の帽子を血み泥から拾い上げた怒れる大蠟、有氣凜リントン。これは弾って弾って放ちたくてたまらないヒンドウー男。これは脂ッポレオンの帽子の片半を巨大白馬尻の鞞の尻尾に帆吊りにしている有氣凜リントン。チップ。有氣凜リントンの未代爵士元戯。蠟、蠟、蠟！これまた有氣凜リントンの艶罪ハーグの白馬尻脂ッポレオンの帽子の片半を吊るした鞞の尾を尾もいっすり振り回し、ヒンドウー覗きを挑蔑しているところ。ヒヒン、幼、幼！（牛泄！）す害！これはヒンドウー覗き、惑ラス魔羅ータ帽子狂い、跳ね飛び飛び跳ね、有氣凜リントンに叫ぶ。アッばか野郎！ばッばか野郎！これは有氣凜リントン、馬や押しも押されもせぬゲントルマン、怒ルシカ能のないシマル・シンに火口箱を差し出す。バツかにせんでクレー！これは這いドードーのヒンドウー覗き、彼の広白太の馬尻の鞞の尻の尾先から脂ッポレオンの帽子の片半の全部を払い落とす。チップ。（牛眼！）す敵！かくて勘地四囲夷為の交戦ハーゲンは終わる。こちらは欣求昇天茸快館。お鞞元に氣を付けてご安散を。

ふひえーっ！

あそこはなんとも暑かったが、ここの紛囂気の殺寒さ！彼女が何虚に住むかは霧知だが、まさかアンナのを

鬼火提灯持ちしちやあ！ 蠟燭明り乏された一月と一つの風窓の家。ぱたぱた、高く低くぱたぱた。数えてみると二十奇。それにもつともな天候！ 気儘風がウァールツ踊り眩むビルトダウンの平原、そして萎びれ塚丘ひとつこと（五十もあるなら、フォモーレ、もう四つ）ひね申す鳥が群れ集い、一つ人好き鳥、二つためき鳥、三つ蜜語鳥、四つ夜爪鳥、五つ逸楽鳥、六つ睦み鳥、七つ名無し鳥、八つやつれ鳥、九つ心地鳥、十は陶醉鳥、十一戎衣鳥、十二十二指鳥。黒詠鳥の野々しり交わす卓状戦地跡！ 七つの大盾物の下に横たわる大昂帝。矛先を爪先向けに。撃馬されたトルソ。対鳩が北崖へと飛び去る。三羽鳥が突南に羽ばたき、門つ外れなカーカー声が天空のかーなたへ届き、擦れ三声が応える。憾むせび、感むせび！ 彼女は河つして出てこない、雷尊が雨降らせても、雷尊が水精乙女らと閃いても、雷尊が雷尊の疾風を波だくましく亡烈に吹きまくっても。そう、いやし雲、いみじ雲！ 雲隠れのリウィア！ 速足にひどく怖が流。脚隠しやぎよろ目縛りや憂き世の死業を。ほほーれ！ 立つ鳥バイバイを濁さらずまで、じつと待っているだけだ。それ、いまや見えてくる、いよいよお出まし、平和鳥、極楽真似鳥、尾丸母さん宿命鳥、突つき拾い鳥、ひろがる風鶏画のなかにひよこひよこと、ピークパーチ疾呼しーしー、頭陀袋を羽根車に羽しよって、その和光の和陸の僥光虹光を跳ねばた羽根はた撥ね放ちながら、こつちを拾いあつちを突つき、拾ってぶん鳥、みんな猫ばば。しかし近夜は潮度停戦、軍事平定、だからわれらは明弔のために泥んこ接吻ケーキを軍嬌の者たちに祈り、かくて嬰乳枝為恰々なる幸の菓の子には満福の休戦となるはず。そばへきて歌って祝おう激煽日。彼女はもつとよく穿り見できるようにと、おとり雄牛の頭光灯を穴借りし（女さかしうして牛を失し損なう、ありとあらゆる戦廢品がそのずったくり袋のなかへ。気短葉莢、がちやがちやボタン、毛羽立ちスパッツ、あらゆるお国の火薬酒瓶、がちやがちや鎖骨に交甲骨地図に鍵にウツドうしい木っ端銭、月下ブローチ、血染みズボン、愛慕ストンがり棒やの夜熟ガーター、摩擦ーセツく靴靴下、二ツ区切り斧、三ツ区切りの万能林足、坊主丸もやしの醜火を浴びた飼葉桶、曲射砲の火縄耳中内臓に大内臓、お菓子なものの悪れや姑れや、古ラベルな涙の肋骨、心な鹿また股もれる最後の溜息（しらバ

ツクレた雄鹿歌！、そして陽見された最高に麗しくも醜た罪（面鳥！）。口づけ。口づけ。口づけ接吻。十字接吻。口づけ十字。命流れ果てまで。果て殺て。

なんと溜めめしくも美しく、なんと史実な妻、厳格に禁じられているというのに、歴史的現在時製の品々を後期預言書の過去からくすねてきて、われら皆をてんやチヤんやか魚つとするよな御曹司と姫君に仕立てあげようとする。彼女は死財の只中で生き流れ、涙さめさめ笑い洗（な）にしろ避忍せぬ歎産婦、寝ブロンを仮面に木靴を蹴り蹴りアリアを歌い（まつサラあ！、どろミファ！）、お望みなら慰搾つてあげる。ほう！ほう！希頭が煉瓦立ちになれば膿せずして袴は落ちて多来まわし（どんな絵にも二面光景があるもの）、なぜなら畏れ多き無摂理の脇道にこそ畢生の作が残り行き、この世は震者らの身置く独房なのだ。若い男勝りに話もたせて迷がしてやって、若いやさ男に陰間の陰で加減なく話させるがいい。倫鈍が眠るあいだは彼女が夜騎士の務めを心得る。銭たまったか？ 彼がいう。何をさ？ にやりとして彼女がいう。それで誰も夫ある身の慰アン婦が好き、金欲な女だから。長々と伸びる地勢は借金にぐっしり漬かつて（笛つ、洪水！）、この無毛つきき無頼奔水地の信心顔には毛眉も目藪もはやないけれど、彼女は竈を賃貸し、泥炭を賃借し、貝々しく波辺を弧まなく漁り盛り、そうして芝女のできるかぎりのことをして盛り盛んに竈を焚くだろう。フーツ！ フーツ！ フーツと燃え上がらせる。フーツ、めらめら。たとえハンプティが数々ど尻またまたどじって、大諫言者の勢揃いする髭胸かけりに落つちても、目玉焼き顔とりつくろつて彼を朝門しにくる朝飯者には卵があるはず。なるほどくるり返し焼きのあるところには茶もまた潤い、尻見えしたと思つても、どっこい、雌鶏に雄鶏される。それから彼女はアン女王よろしく常好みの下賜事に取りかかり、初物を実つけては小税を取り、われらが双土手評論家ぶつて見たところではにきびヶ丘の何も見えないのが他処では六つた八たら、雄ヶ丘らに雌ヶ丘ら、からまり座つて、香気尻ブリツ土と精気雄まるトリツクなにおい、さらさらサテンとたふたふタイツ、ウオートンの阿房宮を戯れているのは、交園の板敷の木陰だ。立て、おのこたち！ おなこたちに直縦射せよ！ 命